

音楽系サークルの演奏録音資料アーカイブサイトの構築

Construction of Performance Recording Data Archive for Music Club in University

檜垣 泰彦
Yasuhiko Higaki

千葉大学大学院 自然科学研究科
Graduate School of Science and Technology, Chiba University

1. はじめに

音楽系サークルの演奏録音資料の会員制アーカイブサイトをインターネット上に構築した。サークル会員数十名、設立 25 年で OB 約 100 名規模で、演奏録音資料 CD 約 100 枚（54 回の演奏会 106 タイトル、2,964 トランク(曲)、総演奏時間 127 時間）が対象である。録音資料の他、演奏会プログラムのアーカイブや、現メンバーと OB の交流の場の提供も行うことを目的とする。現状のサイトの運用は当該サークルに了承を得た上での個人運用であり、利用を当該サークルの現メンバーと OB のみに限定する会員制である。

2. 要件

録音資料のアーカイブは図書館等の大規模サイト等で既に多く実現されているが、本システムの場合個人運用であるため、特に構築・運用の費用を安く抑える必要がある。また、著作権がある音楽のインタラクティブ配信にあたるため、著作権処理が必要となる。JASRAC 管理曲の場合、ダウンロード形式とストリーム形式では使用料が異なり、本サイトでは使用曲数が多いため、10 曲以上は曲数無制限となるストリーム形式の配信とする必要がある。ブロードバンド化が進んでいるものの ISDN のユーザもいるため、低ビットレートのサポートも必要である。資料や定型のコンテンツの登録が中心となるため、簡易コンテンツ管理機能の搭載が必要である。

3. 設計

ストリーム形式の音楽配信では専用のサーバを用いる場合が多いが、費用がかかること、特別なソフトウェアを運用する必要があり保守に手間がかかることなどから本システムでは RealPlayer のサポートする HTTP streaming を採用した。ライブ録音等の連続再生にも対応できる。図 1 に本アーカイブシステムの全体構成図を示す。サーバ PC、更新作業用 PC を含むこれらのシステムは、B フレッツでインターネット接続されている著者の個人宅サーバ (FreeBSD) 上に構築した。DBMS は利用せず、Web サーバ (apache)、全文検索のための namazu の他は perl によるスクリプトを中心として構築した。データの登録を容易にするため、samba によるファイル共有機能を用いた。十分な音質を確保できる 96 kbps stereo の mp3 形式にエンコードすることとした (HBR)。演奏が記

録された CD を RealPlayer のエンコード機能を利用してサーバ上に登録する。このとき入力する演奏情報から mp3 ファイル名が生成され、それを基に変換ユーティリティ 1 が自動的に最小限のコンテンツや RealPlayer のメタファイル (~.ram) を自動生成する。補助ファイル (~.txt) の追加でコンテンツを補うことができる。変換ユーティリティ 2 では lame、ImageMagick により低速回線用の mp3 ファイル (24 kbps mono) や高圧縮の JPEG ファイルを自動生成する (LBR)。HTML や画像、メタファイルは SSL を用いたパスワード保護された領域に置いた。mp3 ファイルはポート 554 (rtsp) の HTTP の領域に置き、パスに一定期限の寿命をもつランダム文字列を含ませることでパスワード保護に代えた。演奏会プログラム (PDF 形式) を収録した。情報交流のための BBS を設けた。JASRAC 指定の利用曲目報告書作成機能を組み込んだ。apache ログファイル解析による再生回数カウンタを実装した。

4. 運用

JASRAC 管理の曲についてインタラクティブ配信の許諾を受けて運用している。登録された録音資料のサイズは HBR 96 kbps のものが 5.2 ギガバイト、自動生成された LBR 24 kbps のものが 1.3 ギガバイトであり、PDF ファイルは 73 件、185 メガバイトである。登録メンバーは全体の約半数の 60 人、これらのうちアクティブなメンバーは更にその半数で、當時アクティブなメンバーは 10 人程度である。

5. おわりに

演奏録音資料アーカイブの目的で運用を開始した当サイトであるが、BBS が予想以上に活用されている。OB の過去の演奏だけでなく、番外編として現在の演奏を相互に公開しあうなど、OB のコミュニケーションの場へと発展しつつある。運用形態の変化も予想されるため、汎用ツールを導入することも検討している。

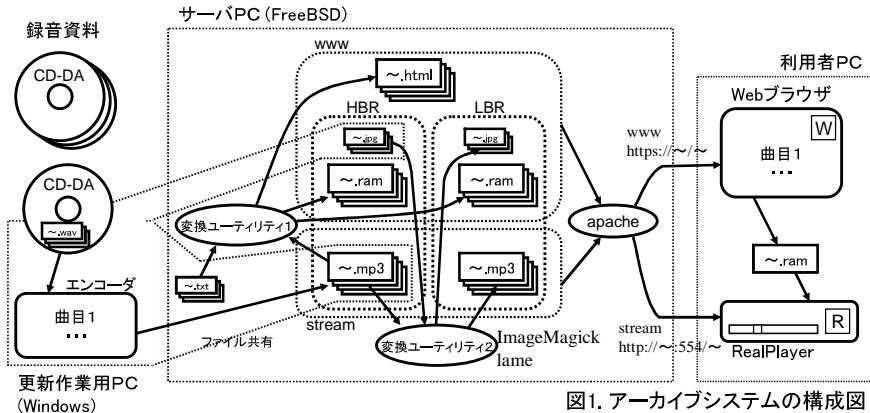


図1. アーカイブシステムの構成図